

# チームけせんの和



## だより

2014

vol.3

11月1日

発行 チームけせんの和

〒029-2205 岩手県陸前高田市高田町字鳴石42-5 TEL 0192-54-2111 FAX 0192-55-6118



### チームけせんの和に寄せて

たかた歯科医院・院長 吉田 裕

震災前に在宅医療を支える会の発足に当たり、歯科医師団の代表として参加しておりました熊谷順也先生が、震災により県外の歯科医院に勤務することになり、当時高田歯科医師団の団長であった私が任を引継ぎ、そのまま理事をお引き受けしております。

震災前に9軒あった歯科診療所は津波により8軒が全壊、1軒が半壊と言う被害を受け、歯科医師も村上德行先生と佐伯厚夫先生のお二人が、尊い命を奪われてしまいました。震災直後、当時気仙歯科医師会の会長だった大和田先生を中心に高田一中で仮設歯科診療所を合同で行い、その後はそれぞれの仮設診療所を設置し、現在は7歯科医院8人が市内の歯科衛生活動にあっております。

3年前の3月11日から数日間は避難所で、下着の替えも歯ブラシも無く、不自由されたことを皆さんも覚えているかと思います。入浴も10日以上はできなくて、水の取り合いで喧嘩になった事もありました。お年寄りです洗面所に入れ歯を置きっ放しで逃げたために、食事がままならない日もありました。

現在、広島のと砂災害等がテレビで連日報道されております。土砂災害（山津波？）と海の津波の違いはあれ、3年前と全く同じ苦しみをしている方々の気持ちや不自由さが手に取るように分かります。

私たち歯科医師が在宅療養を支える活動に参加出来る事は、石木先生の口から何十万回発声されたであろう「口腔ケア」を通じた誤嚥性肺炎の予防だと思えます。日本人の90歳以上の死因の第2位は誤嚥性肺炎だそうです。正直に申し上げて、自宅療養でも施設入所者でも口腔内を見るとあまりの非清潔さに驚くばかりです。しかし、我々歯科医師は医学や薬理、介護の現場では無知と言っても過言ではなく、今後は歯科衛生士と共にチームけせんの和の活動の中で情報交換や研修を繰り返し、陸前高田から誤嚥性肺炎による重病者が一人でも少なくなるように歯科医師団として何が出来るのかをもう一度考えながら活動に参加させて頂きたいと思っておりますので今後も宜しくお願い申し上げます。





## 「チームけせんの和」は、その人らしい生活を多職種で支える牽引車

岩手県立高田病院・総看護師長 熊谷 眞貴子

今年4月に異動し、7か月が過ぎようとしています。  
1年前頃に仮設病院を見学しました。被災したことで落ち込んでいるスタッフのイメージをもっていました。スタッフが前向きにそして一丸となり狭い空間と限られた資源を可能な限り活用し患者さんへ医療を提供していることに感動しました。

私の大切にしている看護は、地域でその人らしく生活できるための日常行動援助です。

今年度高田病院の一員となり、仮設の病院で自分の出来ること・役割を考えました。

病院の理念・看護科の理念をもとに、日常生活行動の援助を行いその人らしく自立した生活が出来ることを目標に患者さんやご家族の方より情報をいただきながら、日常の生活に近づいたケアをスタッフと共に日々実践しています。

さらに、住み慣れた地域でその人らしく生活できるには、医療・介護・福祉の連携が重要と考えます。病院での私たちの関わりは、その人の生活の中のほんの一部、点にすぎません。超高齢化社会をむかえ、医療・介護・福祉が連携し、たくさんの点がつながり線のようになり、情報を共有し多職種がそれぞれの役割を發揮しチームで継続した支援が求められていると思います。そのために私たちが行うこととして、①患者さん・ご家族の方が安心して地域に戻れるように受持ち看護師としての役割意識強化・実践と退院調整看護師の活動体制整備、②地域連携パスを活用し統一・継続したケア提供、③訪問診療時の患者状態の共有等を強化していきたいと考えています。チームけせんの和での多職種の顔の見える・声が聞こえるつながりを大切にしながら安心して生活できるように実践していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

また、将来の気仙地域の医療を担う人材確保対策の一環として、ふれあい看護体験や職場体験、たまごプロジェクトを開催しております。まだ計画の段階ですが、学校への出前講座を行い進路選択の一助になればと考えています。地域みんなで共に育成し、生き生きした地域づくりへも参加していきたいと思っております。日程調整や体験内容等に関して随時対応しておりますので、遠慮せず連絡してください。お待ちしております。

## チームけせんの和 活動報告

H26年10月22日

### 平成26年度 第3回研修会（74名参加）テーマ：「在宅を支える職種の理解を深める」

今回は、訪問看護ステーション、通所リハビリテーション、歯科衛生士の役割について勉強した。ともに、高齢者のケアの中核をなす職種である。訪問看護ステーションでの仕事は多岐にわたり、利用者の情報を多職種で共有することの大切さが理解でき、その核となる介護支援専門員（ケアマネジャー）の力量が問題解決に必要であることがわかった。通所リハビリテーションは高齢者の介護では大変重要で、陸前高田市では唯一の施設の松原苑の重要性を再確認した。高齢者の嚥下機能の維持は、栄養摂取、嚥下性肺炎の予防の為に重要であり、特にADLの低下した人への口腔ケアの大事さが強調された。研修3題を通して、多職種の連携の重要性を再確認した。

（会長・石木幹人）





あゆみ訪問看護ステーション統括の齊藤裕基さんから、訪問看護サービスについて、多職種との連携事例を含めてお話しいただきました。



岩手県歯科衛生士会・理事の佐々木祥子さんより、「歯と口の健康週間」及び「いい歯の日」の啓発活動や、老人施設での口腔ケアボランティアなど、歯科衛生士会の活動の様子を報告していただきました。

松原苑リハビリテーション部・次長/作業療法士の熊谷仁子さんから、デイケア（通所リハビリ）とデイサービスの違いを交えながら、通所リハビリ計画訪問指導や、口腔機能向上サービスなど、各種サービスについてのお話がありました。また、はつらつ倶楽部（陸前高田市二次予防事業）など、自治体や地域の事業所と連携している外部事業についても紹介していただきました。



お 仕 事  
紹 介

陸前高田市地域包括支援センター（長寿社会課内）

岩手県陸前高田市高田町字鳴石42-5

電 話：0192-54-2111（内線205・206）

FAX：0192-55-6118

地域包括支援センターは、高齢のみなさんが住みなれた地域で安心して暮らしていくために、介護、福祉、健康、医療など様々な面から総合的に対応する「なんでも相談」窓口です。「どこに相談するのかわからない」といった悩みも相談できます。直接相談に来られない方には、職員が自宅を訪問します。

こんな相談も！

- ★寝たきりや認知症への不安がある
- ★介護サービスを利用したい
- ★これって虐待？
- ★悪質な訪問販売の被害にあった
- ★お金の管理や契約が心配だ
- ★介護サービス事業者に不満がある





## 復興にこそ「チームけせんの和」の力を！

絆ケアセンター・管理者 佐藤 吉樹

皆さん、ヽ(^o^)ノ！ こんにちはの意味のようです。絵文字を覚えようと必死に頑張っている、絆ケアセンターの佐藤、通称「絆の佐藤」です。絵文字自体が古いですか？

チームけせんの和の活動、いつもご苦労様です。8月には、当法人の絆デイサービスセンターを研修会にて紹介させて頂き、ありがとうございました。当センターの活動が、会員の皆さんにご理解頂けたと思っています。

改めて紹介させて頂きますと、絆ケアセンターは、東日本大震災後の平成24年6月に広田町に法人を設立し、同年8月から絆指定居宅介護支援事業所と絆ホームヘルプ事業所を開所し、その後、平成25年4月に絆デイサービスセンターを開設しました。地域に密着した在宅サービス中心型のセンターとして、市役所担当課、地域、けせんの和会員、そして関係機関の皆さんから指導を頂きながら事業を展開しています。

チームけせんの和に参加させて頂いた経緯は、石木先生にお声を掛けて頂き、参会しました。会の目的にもあるように、「地域で在宅療養を支え、会員相互の連携を図りながら・・・。」と先生に説明され、私も甚大な被害を受けた陸前高田市の高齢者の皆様のお役に立ちたいという思いで立ち上げたセンターでしたので、お話しを頂いた時は本当にありがたく参加させて頂いた事を思い出します。この2年間の活動で、会員相互連携の“機縁”は構築されたと思いますので、これからがチームけせんの和の、本領発揮です。

実際、ケアマネジャーとして各家庭を訪問させて頂いておりますが、仮設住宅にはボランティアの皆さん方の支援がありますが、仮設住宅から出たお年寄りへの支援が必要だと感じている今日この頃です。特に、新しい地域で生活を始めた方への手厚い支援が必要です。ご近所付き合いもなく、お茶飲み友達も未だいないといったお年寄りが、生活不活発の状態で過ごされており、今まさに地域包括ケア、チームけせんの和の活動が必要不可欠になっています。この会を、陸前高田市の“社会の公器”と捉え、活動に携わっていきたく考えています。

終わりに、寒さが厳しくなってきますので、体調の管理には十分に気を付けて頂きたいと思えます。また、忘年会シーズンがやってきます。自分事ですが、ノコミュニケーションは非常に大事だと思っていますので、お互いに飲みすぎには注意しましょう。これからもよろしく(^人^)お願いします。

## 「チームけせんの和」寸劇団員募集のお知らせ！

地域のみなさんに、健康にまつわるさまざまなテーマを、寸劇を通して情報発信しませんか？「チームけせんの和」のメンバーがケセン弁で演じる、気仙地区に合った、子供から高齢者までみんなに身近に感じてもらえる寸劇団を結成しましょう！

寸劇団に興味のある方、アイデアのある方、質問のある方、脚本、監督、役者、ナレーション、大道具・小道具、衣装、ヘアメイク、広報志望など、ご一報ください。お待ちしております！

連絡先：陸前高田市地域包括支援センター 蒲生 紋子 0192-54-2111（内線205）

### 編集後記

秋もすっかり深まり、山や川・海の食べ物がおいしくなりましたね。遅れていた会報も、立て続けに2号3号を発行してしまいました。医療介護連携に関する相談や提案がありましたら、事務局までお寄せください。

事務局 佐藤